



令和 7 年 度

高等学校(情報)教員資格認定試験

教科及び教職に関する科目(Ⅰ)

注 意 事 項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 氏名、受験番号を「令和7年度 高等学校(情報)教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号をマークしてください。
4. 「解答カード」の中で、特に受験番号の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て「解答カード」の解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず黒鉛筆(HB)を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正する時は、プラスチック製消しゴムで完全に消してください。また、「解答カード」を曲げたり折ったりしてはいけません。
「解答カード」が汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に「解答カード」の交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 70分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) 
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) 

問 1 日本の教育史の展開とその基本理念に関する記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 江戸時代に普及した寺子屋は、主に「手習」(てならい)や「読物」(よみもの)、すなわち読み書きの初歩を庶民の子供たちが学ぶ場であったが、これに算用、すなわちそろばんを合わせて教える寺子屋も幕末期には増え、学制以後の小学校に近づいている。寺子屋の師匠(経営者)は平民が多かったが、地域差があり、武士や僧侶が比較的多い地域もあった。

イ 1872(明治5)年の学制序文(被仰出書)には個人主義・実学主義の教育観、学問観が示されており、学校が究極において目標としていることは「人々各々その身を立て、その産を治め、その業をさかんにする」ようにさせることだとされている。これは、学問は国家のためとする考え方に対する批判をベースにしている。

ウ 戦後の教育改革の基本的な方向づけに大きく影響したものとして1946(昭和21)年の米国教育使節団の報告書がある。同報告書は、民主的な教育の基本は個人の価値と尊厳を認めることであるとした上で、具体的な学校制度として6・3・3制と、特に6・3の義務制とその無月謝、男女共学を勧告し、高等教育についてはその門戸開放・拡大や一般教育の導入などを勧告している。

エ 戦後の新制学校は、1947(昭和22)年に小学校・中学校が、1948(昭和23)年に高等学校が、1949(昭和24)年に大学が、それぞれ発足した。文部省は小・中・高等学校の教育課程の基準としての「学習指導要領一般編」を1947年の春に、続いて各教科別の学習指導要領を発表した。この学習指導要領は文部大臣の定める基準であり、法的な拘束力を持つものである。

問 2 近代教育の基本的な理念や思想及びその展開に関する記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ヴィゴツキーは『思考と言語』において、子供の知能の発達状態は、現在の発達水準と発達の最近接領域とを明らかにすることで明確にできるものと指摘した。この「発達の最近接領域」とは、大人の指導と援助のもとで可能となる問題解決の水準と、自主的活動において可能な問題解決の水準との食い違いによって決定づけられるものである。

イ コア・カリキュラムとは、教育課程の中核(コア)として特定の教科や領域を設定し、その周辺に選択学習や基礎学習などを配置する構成法を意味する。アメリカをはじめとする新教育運動の中で教科統合を実践したさまざまな教育課程が現れ、この影響を受けて戦後日本の教育改革においても文部省が「学習指導要領」の中で教育課程編成において踏まえるべき「コア」を明示している。

ウ パーカーストがアメリカ・マサチューセッツ州のダルトンの中学校で実施した、子供の自発性を尊重した個別進度学習の指導法はダルトンプラン(ドルトンプラン)と呼ばれ、これに倣って1920年代(日本の大正期)を中心に日本でも私立の新しいタイプの学校(新学校)が続々と創設され、また師範学校の附属小学校でも新学校を目指す改革が行われた例が見られる。

エ フィリップ・アリエスは、『〈子供〉の誕生』において、17～18世紀頃に近代家族が生まれ、大人の生活と子供の生活が分離しはじめた頃から、社会が子供を意図的なケアや教育の対象として捉えるようになったと指摘し、それ以前は大人と比べて身体が小さく能力が劣る「小さな大人」とみなされてきたと述べている。

問 3 「教育基本法」(平成 18 年法律第 120 号)の条文として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 国民は、基本理念にのっとり、こども施策について関心と理解を深めるとともに、国又は地方公共団体が実施するこども施策に協力するよう努めるものとする。
- イ すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。
- ウ 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。
- エ 地方公共団体の長は、大綱の策定に関する協議及び次に掲げる事項についての協議並びにこれらに関する次項各号に掲げる構成員の事務の調整を行うため、総合教育会議を設けるものとする。

問 4 次の各文は、「学校教育法」(昭和 22 年法律第 26 号)の条文である。文中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第 11 条 校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に ① を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。

第 50 条 高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の ② に応じて、高度な ③ 教育及び専門教育を施すことを目的とする。

- | | ① | ② | ③ |
|---|----|----------|----|
| ア | 懲罰 | 成長及びキャリア | 普通 |
| イ | 懲戒 | 発達及び進路 | 普通 |
| ウ | 懲戒 | 成長及びキャリア | 教養 |
| エ | 懲罰 | 発達及び進路 | 教養 |

問 5 「教育公務員特例法」(昭和 24 年法律第 1 号)の内容として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 公立の小学校等の教諭等の条件付採用期間は、地方公務員法第 22 条に規定される「一年」ではなく、「六月」である。
- イ 公立の小学校等の校長及び教員の任命権者は、当該校長及び教員ごとに、「研修等に関する記録」を作成しなければならない。
- ウ 公立学校の教員の採用は、任命権者である教育委員会の教育長が「選考」によって行う。
- エ 公立学校の教育公務員の政治的行為の制限については、当分の間、地方公務員法第 36 条の規定にかかわらず、国家公務員の例による。

問 6 次の文章は、「高等学校学習指導要領」(平成 30 年 3 月文部科学省告示第 68 号)の「第 1 章 総則 第 3 款 教育課程の実施と学習評価 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」からの抜粋である。文章中の空欄 ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

学校図書館を ① に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、生徒の自主的、自発的な学習活動や ② を充実すること。また、③ の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の ④ の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

- | | ① | ② | ③ | ④ |
|---|-----|------|----|----|
| ア | 意図的 | 読書活動 | 公共 | 機関 |
| イ | 計画的 | 読書活動 | 地域 | 施設 |
| ウ | 意図的 | 言語活動 | 地域 | 機関 |
| エ | 計画的 | 言語活動 | 公共 | 施設 |

問 7 次の文章は、「高等学校学習指導要領」(平成 30 年 3 月文部科学省告示第 68 号)の「第 1 章 総則 第 5 款 生徒の発達の支援 2 特別な配慮を必要とする生徒への指導」からの抜粋である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

(1) 障害のある生徒などへの指導

イ 障害のある生徒に対して、学校教育法施行規則第 140 条の規定に基づき、①を編成し、障害に応じた特別の指導(以下「②」という。)を行う場合には、学校教育法施行規則第 129 条の規定により定める現行の特別支援学校高等部学習指導要領第 6 章に示す③の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。その際、②が効果的に行われるよう、各教科・科目等と②との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

	①	②	③
ア	個別の教育課程	個別指導	自立活動
イ	個別の教育課程	通級による指導	キャリア教育
ウ	特別の教育課程	個別指導	キャリア教育
エ	特別の教育課程	通級による指導	自立活動

問 8 次の文章は、「高等学校学習指導要領」(平成 30 年 3 月文部科学省告示第 68 号)の「第 4 章 総合的な探究の時間 第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」からの抜粋である。文章中の空欄 ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

探究の過程においては、他者と ① して課題を解決しようとする学習活動や、 ② により分析し、 ③ 表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際、例えば、比較する、分類する、関連付けるなどの ④ が自在に活用されるようにすること。

	①	②	③	④
ア	協働	統計	まとめたり	整理するための技法
イ	協力	言語	考察したり	整理するための技法
ウ	協力	統計	考察したり	考えるための技法
エ	協働	言語	まとめたり	考えるための技法

問 9 次の文章は、「高等学校学習指導要領」(平成 30 年 3 月文部科学省告示第 68 号)の「第 1 章 総則 第 1 款 高等学校教育の基本と教育課程の役割」からの抜粋である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

道徳教育は、 ① に定められた教育の根本精神に基づき、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として ② ための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

道徳教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、 ③ や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。

	①	②	③
ア	教育基本法及び学校教育法	他者と共によりよく生きる	国際社会の平和と発展
イ	憲法及び教育基本法	他者と共によりよく生きる	国際秩序の維持
ウ	教育基本法及び学校教育法	国家及び社会の形成者となる	国際秩序の維持
エ	憲法及び教育基本法	国家及び社会の形成者となる	国際社会の平和と発展

問10 次の文章は、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編』(平成30年7月)の「第1章 総説 第2節 特別活動改訂の趣旨及び要点 1 改訂の趣旨」からの抜粋である。文章中の空欄 ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

特別活動は、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の ① である。その活動の範囲は学年、学校段階が上がるにつれて広がりをもっていき、そこで育まれた資質・能力は、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中で生かされていくことになる。このような特別活動の特質を踏まえ、指導する上での重要な視点を「 ② 」、「 ③ 」、「 ④ 」の三つとして整理した。

	①	②	③	④
ア	総称	集団づくり	社会参画	キャリアデザイン
イ	総体	人間関係形成	社会参画	自己実現
ウ	総体	集団づくり	学校生活づくり	キャリアデザイン
エ	総称	人間関係形成	学校生活づくり	自己実現

問11 『生徒指導提要』(令和4年12月文部科学省)の「第1章 生徒指導の基礎 1. 2 生徒指導の構造」では、生徒指導の対象となる生徒の範囲から、4層で生徒指導の重層的支援構造を示している。その重層的支援構造として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

	第1層	第2層	第3層	第4層
ア	発達支持的 生徒指導	課題予防的生徒指導： 課題未然防止教育	課題予防的生徒指導： 課題早期発見対応	困難課題対応的 生徒指導
イ	困難課題対応的 生徒指導	課題予防的生徒指導： 課題早期発見対応	課題予防的生徒指導： 課題未然防止教育	発達支持的 生徒指導
ウ	発達支持的 生徒指導	課題予防的生徒指導： 課題早期発見対応	課題予防的生徒指導： 課題未然防止教育	困難課題対応的 生徒指導
エ	困難課題対応的 生徒指導	課題予防的生徒指導： 課題未然防止教育	課題予防的生徒指導： 課題早期発見対応	発達支持的 生徒指導

問12 自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder; ASD)に関する説明として適切でないものを、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 他者との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする発達の障害である。
- イ その特徴は3歳くらいまでに現れることが多く、成人期に症状が顕在化することはない。
- ウ 学びの場には、通常の学級、通級による指導、自閉症・情緒障害特別支援学級がある。
- エ 自閉スペクトラム症のある子供は、表情や言葉の調子などから相手の感情を理解することが難しいことなどを要因として、自由な対人交流場面において、他者とのやり取りに困難さが見られることがある。

問13 エリクソン(Erikson, E.H.)が提唱した発達段階のうち「青年期」の発達に関する説明として適切でないものを、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 青年期の発達課題として自我同一性の達成を挙げた。
- イ この時期は、「自分とはどんな人間なのか、何になりたいのか」と、自分に関心が向くようになる。
- ウ 自我同一性の模索が行われるのは、思春期に入り身体的な変化や性衝動のような内的な欲求の変動などが生じ、それまでの自己のイメージの動揺が起こることが理由の一つとして考えられている。
- エ この時期には、エディプスコンプレックスがみられると言われている。

問14 教育心理学における、学習の方法に関する説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア ブルーナー(Bruner, J.S.)が提唱した発見学習とは、学習者自身に命題を発見させる教授方法であり、学習者は授業に受動的に参加するものである。
- イ スキナー(Skinner, B.F.)が提唱したプログラム学習には、積極的反応の原理、スモールステップの原理、即時確認(即時強化)の原理、学習者の自己ペースの原理がある。
- ウ デューイ(Dewey, J.)が提唱した問題解決学習の考え方を基とするプロジェクト・ベース学習は、グループで実施することを原則とする。
- エ アロンソン(Aronson, E.)によって考案されたジグソー学習では、学習者が受動的な態度で授業に参加するため、学習の動機づけを維持するために授業内容を理解しやすいように工夫する必要がある。

問15 次の各文は、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』(令和3年1月26日中央教育審議会)の「総論編」の内容についての説明である。文中の下線部に誤りのあるものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要である。
- イ 校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化を図るとともに、学校内外との関係で「連携と分担」による学校マネジメントを実現する。
- ウ 各学校においては、「個別最適化された学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。
- エ 高等学校においては、選挙権年齢や成年年齢が18歳に引き下げられるなど、生徒が高等学校在学中に、主権者の一人としての自覚を深めることを含め、自立した「大人」として振る舞えるようになることが期待されている。

問16 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』(平成30年7月)の「第1部 各学科に共通する教科「情報」 第1章 総説 第3節 情報教育の中での共通教科情報科の位置付け」における「2 3 観点による情報活用能力の整理」に示されている①～③の定義のうち、「情報の科学的な理解」の項目に当てはまる内容はどれか、過不足なく選択している組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解
- ② 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- ③ 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解

- ア ①②
- イ ①③
- ウ ②③
- エ ①②③

問17 次の文章は、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』(平成30年7月)の「第1部 各学科に共通する教科「情報」 第1章 総説 第3節 情報教育の中での共通教科情報科の位置付け」における「6 中学校技術・家庭科技術分野等との関係」からの抜粋である。文章中の空欄 ① , ② に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

共通教科情報科の学習内容は、中学校技術・家庭科技術分野の内容「D 情報の技術」との系統性を重視している。今回の改訂では、「D 情報に関する技術」について、小学校におけるプログラミング教育の成果を生かして発展させるという視点から、従前からの ① に加えて、 ② のプログラミングについても取り上げるなどの内容の改善を図っている。

- | ① | ② |
|-----------------|-------------------------|
| ア 計測・制御 | 社会や自然などにおける事象をモデル化する方法 |
| イ 計測・制御 | ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツ |
| ウ アルゴリズムを表現する手段 | 社会や自然などにおける事象をモデル化する方法 |
| エ アルゴリズムを表現する手段 | ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツ |

問18 次の文章は、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』(平成30年7月)の「第1部 各学科に共通する教科「情報」 第2章 共通教科情報科の各科目 第1節 情報Ⅰ 2 内容とその取扱い (1) 情報社会の問題解決」に示された内容に基づく記述である。

イの(イ) 情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察することでは、情報社会で責任をもって生活していくために、情報に関する法規や制度に適切に対応する力、情報モラルに配慮して情報を発信する力、情報セキュリティを確保する力などを養う。その際、科学的な根拠に基づいた判断ができるようにし、法規や制度が改正されたり、マナーが変わったりしても、科学的な根拠や、法規や制度及びマナーの意義に基づいて正しい対応ができるようにする。

上の「内容の取扱い」の例として示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 推測されにくいパスワードや生体認証などの個人認証の必要性を扱う。
- イ ソフトウェアのセキュリティ更新プログラムを適用する必要性を扱う。
- ウ セキュリティ技術評価の目的、考え方、適用方法を修得し、応用する。
- エ 個人情報の保護に関する法律における個人データの例外的な第三者提供について考える。

問19 あるプログラム表記を用いて、次のプログラムAとプログラムBを作成した。どちらのプログラムも、配列 $a[0]$ から $a[n-1]$ を昇順に整列する。ただし、 n は2以上の整数とする。

プログラムAとプログラムBについての説明として、下の①～③の三つの文を作成した。

```

(01) i = 0
(02) i < n - 1 の間繰り返す：
(03)   x = i
(04)   xp = a[i]
(05)   j = i + 1
(06)   j < n の間繰り返す：
(07)     もし a[j] < xp ならば：
(08)       x = j
(09)       xp = a[j]
(10)     j = j + 1
(11)   t = a[i]
(12)   a[i] = a[x]
(13)   a[x] = t
(14)   i = i + 1

```

プログラムA

```

(01) i = 1
(02) i < n の間繰り返す：
(03)   j = i
(04)   j >= 1 の間繰り返す：
(05)     もし a[j - 1] > a[j] ならば：
(06)       t = a[j]
(07)       a[j] = a[j - 1]
(08)       a[j - 1] = t
(09)     j = j - 1
(10)   i = i + 1

```

プログラムB

- ① 配列に格納されている要素が完全に昇順に整列されている場合、プログラムAの11行目の実行回数は、プログラムBの6行目の実行回数よりも少ない。
- ② 配列に格納されている要素が完全に降順に整列されている場合、プログラムAの11行目の実行回数は、プログラムBの6行目の実行回数よりも少ない。
- ③ 二つのプログラムにおける要素の比較操作回数(プログラムAの7行目の実行回数と、プログラムBの5行目の実行回数)のオーダーは、ともに $O(n^2)$ である。

①～③のうち、上記プログラムについて、適切に説明している文はどれか、過不足なく選択している組合せとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア ①②
 イ ②③
 ウ ①③
 エ ①②③

問20 二つの量的データの関係に関する説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 水難事故の件数とアイスクリームの販売個数との間に強い正の相関が見られる場合、水難事故の件数が多ければアイスクリームの販売個数が上昇するという因果関係が成り立つ。
- イ ある成人の集団において、年齢と立ち幅跳びの記録との間の相関係数を調べたところ、 -0.9 であった。このとき、二つの量的データの関係には弱い負の相関があるといえる。
- ウ ある小学校の健康診断結果を分析したところ、児童の学年が上がるにつれて児童の足のサイズが大きくなるという関係があることがわかった。このとき、児童の学年を従属変数、児童の足のサイズを独立変数と呼ぶことができる。
- エ ある企業において、平均気温と飲料販売数の関係を調べたところ、平均気温が上昇すると飲料販売数も増加するということがわかった。このとき、平均気温を説明変数、飲料販売数を目的変数と呼ぶことができる。